

ぐんま

第4回群馬学センター萩原文庫シンポジウム

郷土史の黎明

主催者挨拶

群馬県立女子大学 学長 小林良江

基調講演

「近代群馬の史誌編纂事業と史料探訪」

元群馬県立文書館長 岡田昭二

「近代群馬と郷土史

—豊国覚堂の活動を通して見る郷土史—

群馬県地域文化研究協議会 会員 大野秀彰

パネルディスカッション

「明治の県史編纂 萩原進を育てた郷土研究」

岡田昭二・大野秀彰

司会：松浦利隆（群馬県立女子大学群馬学センター教授）

2018年

1/20
土

13:00 ~ 16:00

群馬県立女子大学
新館第1講義室

参加費 無料

お申し込み・お問い合わせ

群馬県立女子大学事務局

〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1 電話：0270-65-8511 FAX：0270-65-9538

電子メール：gunmagaku-center21@mail.gpwu.ac.jp ホームページ：http://www.gpwu.ac.jp/

ぐんま県民カレッジ連携講座

主催 群馬県立女子大学

後援 上毛新聞社、NHK前橋放送局、群馬テレビ、FM GUNMA、群馬歴史散歩の会、群馬県地域文化研究協議会、長野原町

第4回 群馬学センター萩原文庫シンポジウム

ぐんま郷土史の黎明

群馬県の郷土研究は、江戸中期の毛呂権蔵『上野国誌』に始まり、幕末までに数編の民間地誌に継承された。さらに、維新後は政府が国史編集の一環で各県に指示した「府県史」「地誌」が『群馬縣歴史』『上野国郡村誌』として明治中期に完成することで近代的なものとなった。明治42年、この成果を基礎に県は各市町村に各「郷土誌」の編集、その役場、小学校への常備を命じ、県内各地で郷土への関心が一気に高まることとなった。

このような官製の歴史編纂の一方、民間からも積極的に郷土の調査や歴史編纂に乗り出す動きが起り、その中心となったのが、豊国覚堂である。豊国は大正初期に雑誌『上毛及び上毛人』を創刊、郷土史家の交流と発表の場を作り、後進に研究の方法と課題を示した。

これら官民の動きは、大正から昭和にかけて合同され、『群馬縣史』の編纂や、師範学校での郷土研究強化を通じ小学校での郷土教育の活発化に寄与した。

折しもこの時期の師範学校に学んだのが萩原進たちであり、彼らの後年の業績の基礎となる知識や研究へ情熱などを形成した、明治から大正期の郷土研究の様相とその歴史について考えてみたい。

◆ お申し込み方法

はがき、電話、ファックス、またはEメールにて、郵便番号、住所、氏名、電話番号を大学事務局あて、平成30年1月18日(木)までにお知らせください。ファックスを使用される場合は、下記の参加申込書をお使いください。(土・日・祝日はお電話をお受けできませんので、ご了承ください。)

◆ お申し込み先

〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1
群馬県立女子大学事務局教務係
TEL.0270-65-8511
FAX.0270-65-9538
E-mail : gunmagaku-center21@mail.gpwu.ac.jp

ACCESS



講師1 岡田昭二 Shouji Okada 元群馬県立文書館長

1953(昭和28)年愛知県西尾市生まれ。慶應義塾大学文学部史学科卒業。群馬県史編さん室にて近世文書の調査や資料編の編集作業に従事。その後、群馬県立文書館にて古文書等の収集・保存業務に携わり、2014(平成26)年定年退職。この間、高崎市・新治村・榛名町等の自治体史編さん事業に参加。現在、アーカイブズの普及活動に取り組む。日本アーカイブズ学会(登録アーキビスト)、日本歴史学協会、地方史研究協議会等に所属。

講師2 大野秀彰 Hideaki Oono 群馬県地域文化研究協議会 会員

1985(昭和60)年桐生市生まれ。群馬大学大学院社会情報学研究所修士課程修了。近代における郷土意識の生成と愛国心の連動をテーマに、『上毛及上毛人』等の郷土研究雑誌上で展開された、豊国覚堂ら郷土史家の言論・出版活動を分析。専攻は地域史、歴史情報論。現在は県内の病院に勤務し、2014(平成26)年には勤務先医療法人の創立60周年記念誌の編集を担当した。近年は、現代社会において「歴史」が人々にどのように受容・消費されているのか、関心を持っている。真田氏、上杉氏のファン、武田氏や小山田氏も好き。群馬県地域文化研究協議会会員。

司会 松浦利隆 Toshitaka MATSUURA 群馬県立女子大学 群馬学センター教授

1957(昭和32)年高崎市生まれ。筑波大学卒業、同大学院修了。県立高校教諭、県文化財保護課、県立歴史博物館、県世界遺産推進課などを経て、2015(平成27)年から現職。日本近代史、産業技術史、TICCIH日本代表。

群馬学センター萩原文庫シンポジウムとは・・・

群馬県立女子大学では、平成16年度から、広く県民の参加を呼びかけながら、群馬の来し方行く末を総合的多角的に考える「群馬学」を提唱し、そのための機関として「群馬学センター」を設置し、シンポジウムの開催などの取組を行ってきました。

萩原進氏(大正2年～平成9年)は、戦後の群馬県の歴史研究を牽引し、文化財や民俗調査、文学、ジャーナリズムまで幅広い分野で活躍されました。逝去後、膨大な資料や原稿がご遺族によって本学群馬学センターに寄贈され、整理分析が続けられています。萩原文庫シンポジウムは、この分析・研究の成果を広く県民の皆様にご覧いただくことを目的としたシンポジウムです。

FAX送信票

第4回群馬学センター萩原文庫シンポジウム「ぐんま郷土史の黎明」参加申込書

〒 ご住所	
お名前	電話番号
〒 ご住所	
お名前	電話番号